

心の故郷（ふるさと）

松戸市立栗ヶ沢中学校 教頭

すはら たかひろ

須原 敬浩

ここ数年、ゴールデンウィークというと「自宅でゴロゴロ」と決め込んでいます。行楽地は、どこも人・人・人ですから・・・。

今年もぼーっとテレビを眺めていると、高速道路の大渋滞や新幹線などの混雑のニュースが映し出されていました。家族旅行を楽しむ親子の笑顔、また、この連休を「故郷（ふるさと）」で過ごす人々が、おじいちゃんやおばあちゃんへのお土産でしょうか、大きな荷物を汗をかきながら抱え、満員電車に乗り込む姿がありました。

私には、「故郷」と呼べるものはありません。いつも「故郷」のある人たちが羨ましく私の目に映ります。何歳になっても、何年経っても、そこには人それぞれの思い出があり、穏やかに抱きかかえてくれる・・・。また、日々の忙しさの中で、忘れかけた心を、温かくそして優しく呼び戻してくれる、そんな癒しの空間が人間には大切だし、それが「故郷」なんだろうなあ・・・と思っています。

さて、私はこの4月より栗ヶ沢中学校に赴任いたしました。あっという間に2ヶ月が過ぎようとしています。そのような中で、この小金原の印象は、“一人一人の住民が、自分たちの地域にしっかりと目を向け、隣近所で心を寄せ合い生活している心温まる地域”と感じています。これぞまさしく「故郷」であり、私にとっては、まさに「心の故郷」と呼ぶにふさわしい土地であることを感じています。誠に勝手ではありますが、何かの縁を感じながら、これからこの地域の一員として迎えて頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。